



古川 一美 議員



古河市ブランド戦略について

問 市内外に古河の魅力を発信するため約8千万円で委託した事業の①委託契約終了後の事業展開②期待する成果を伺う。



古河市ブランド戦略ロゴマーク

答 (副市長) ②暮らす市民が褒めるまちをゴールに、移住定住

に結び付くことを目指していく。
答 (企画政策部長) ①市民が市の魅力を再発見、自らが発信できる取り組みを進めていく。

出産・子育て支援について

問 国の施策として行われているものが多く、他自治体との差別化が難しい。古河市として特に力を入れているものは。

答 (福祉部長) 児童発達支援センターを直営で実施している。民間施設等の要支援児受け入れに当たり補助金を交付している。

ヤングケアラー支援について

問 背景には生活困窮、病気、高齢介護、障がいなどの問題が

あり、市内での連携、重層的支援体制の確立が求められる。今後の支援体制は。

答 (福祉部長) ヤングケアラーを直接支援できる家事援助、食料や日用品の支援を充実させる。

マイナンバーカードの問題について

問 全国でトラブルが多発しているが①古河市ではトラブルはないのか。②対策は十分か。

答 (企画政策部長) ①委託業者が運営する窓口でマイナポイントの誤紐付けがあった。②委託業者に研修等の徹底を指示した。

答 (市民部長) ②システムの仕様上、証明書の誤交付等は発生しないものと認識している。



秋庭 繁 議員



給食費の無償化と自校調理方式の存続について

問 県内で給食費の無償化が進み、国も子育て支援策に給食費の無償化を言い出している。コロナ禍で貯め込んだ基金活用でやる気があるのか問われている。

答 (市長) 国の具体的な方策は明らかにされておらず、情報を集め検討したい。今年度だけの無償化であれば貯金を取り崩すことも可能だが、継続的に行わなければ意味がない。市には余

裕がなく万が一の時に市全体を回していくため、どこに重点配分するかを考え財政を運営していきたい。

ぐるりん号・デマンド交通 (愛・あい号) について

問 福祉バスとして発足し喜ばれていたが、再編によって苦情が殺到。議会に改善を求める請願も出されている。利用者の声に応え早急に改善を求める。



減便となったぐるりん号南コース

答 (市民部長) 限られた財源の中で受益者負担の統一性を図り

たい考えがあった。市民からの要望を真摯に受け止めニーズを把握、検証したい。公共交通活性化会議に諮り、見直しのできるところから進めていきたい。

老人福祉センター存続について

問 来年3月まで運営するのに温泉井の解体、トイレを直さないのは人権侵害。老人福祉センターの存廃について県に相談に伺った方がいる。老人福祉法に反しないか。

答 (福祉部長) 将来を見据え持続可能な高齢者福祉サービスを図るため、ハード事業からソフト事業に転換し、新規拡充したソフト事業を令和5年度より前倒しで実施している。